

土木施設を観光資源に生かし「まちおこし」

ご挨拶を申し上げます前に、このたびの熊本地震により犠牲になられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災されましたみなさまに心からお見舞いを申し上げます。また、現在も復興にご奮闘されているみなさまに敬意を表する次第でございます。

長崎県もかつて幾度もの大規模災害に見舞われましたが、全国のみなさまからの温かいご支援によって復興を果たすことができました。そのご恩返しの意味も込めまして、震災被災地が1日も早く復旧・復興できるよう、県民のみなさまとともに最大限の支援に取り組んでまいります。

1. はじめに

長崎県には、変化に富んだ美しい自然や、古くからの海外との交流により培われてきた独特の文化、豊かな海洋資源や個性あふれる離島など、非常に特徴的で多様な地域資源に恵まれております。一方、人口減少や少子高齢化が急速に進行しており、本県の特徴を最大限に活かし、国際社会との交流をさらに拡大させ、その活力を取り込むことが重要な課題となっております。

このため、世界遺産登録をはじめとする地域の活性化や観光の魅力の磨き上げ、戦略的な情報発信に取り組んでいるところです。

2. 施設整備における観光資源への配慮の取組について

長崎には、独自の文化とともに守り抜かれてきた歴史的建造物が多数存在しており、大浦天主堂や旧グラバー邸などが魅力ある観光資源として注目を集めています。土木施設についても、昭和57年の長崎大水害において被災した中島川の河

川改修事業にあたり、本川の左右両側にバイパス水路を設け、国の重要文化財である眼鏡橋を復元する取組を行いました。中島川は、今ではまち歩き観光「長崎さるく」の人気コースとなり、毎年2月に開催されるランタンフェスティバルではランタンによる装飾が行われるなど、国内外から多くの方々が訪れる観光地となっております。現在は、下流に位置する鎖国時代の玄関口「出島」の跡地において、明治時代に外国人技術者デ・レーケの提案により行われた中島川変流工事後の景観を保全する護岸工事を行っており、長崎市が進める出島表門橋の整備と連携して出島一帯の歴史的環境整備に取り組んでいます。



中島川の眼鏡橋

また、明治時代に完成した水道専用の本河内低部ダム・高部ダムを洪水調節機能を持つダムとして再開発した際には、日本初の豎坑型トンネル式洪水吐きを新設するなど、さまざまな技術を駆使して既設ダムの保全を行い、この取組により平成26年度の全建賞を受賞しました。

このように、新たな土木施設を整備する際には、現存する歴史的建造物を保全する工夫を行いながら、観光資源としての活用につながるよう取り組んでいます。

長崎県知事 **中村 法道**



3. 土木施設を観光資源に活用する取組について

昨年度は「明治日本の産業革命遺産 製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業」が世界遺産に登録され、端島（通称軍艦島）をはじめとした世界遺産関連施設に多くの方々が訪れました。現在は、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録を目指して取り組んでいるところです。

さらに観光の魅力を磨き上げるため、県内に数多く存在する歴史的・技術的価値の高い土木施設を観光資源の一つとして活用することを目的として、今年度から長崎大学と連携し、土木遺産利活用検討事業を行っているところです。この事業では、長崎大学の学生も参加し、土木遺産の発掘・調査により、世界遺産や他の文化財など本県ならではの観光資源と一体となった歴史的ストーリー性のある新たな観光周遊ルートの創設を行うこととしています。この他にも、長崎県土木部が発行している「DOVOC通信ながさき」において、長崎大学の岡林隆敏名誉教授による連載記事「長崎県の土木遺産」を掲載し、県内の土木遺産を広く紹介してきたところです。

県内の土木施設の中でも、長崎港に架かる女神大橋は、昨年「長崎市都市景観賞」を受賞するなど景観を構成する土木施設として県民や観光客に親しまれており、昨年度より、まち歩き観光「長崎さるく」と連携し、試験的に体験型観光「女神大橋さるく」を開催しています。普段立ち入ることができない海上175mの高さの主塔頭頂部から長崎港を見渡すことや、桁下部から大型クルーズ船の入港を間近で見学することができることから参加者に大変満足いただいております。この取組は高い評価を受け、今年6月には全建賞を受賞し

たところ です。

また、歴史的建造物が地域で守り抜かれてきたことを教訓とし、土木施設についても地域で見守る活動が行われ、地域の資源として活用する取組を行っています。日本風景街道に登録された「ながさきサンセットロード」は、長崎県西部の美しい海岸沿いの道路（国道202号、国道499号等）を中心としたルートであり、沿線地域の夕日や教会、橋などの美しい景色、歴史的、文化的資源を活用し、地域活動団体と関係行政とが協働しながら、沿道景観の保全や整備など、さまざまな活動に取り組んでいます。この他にも、土木施設の清掃を行うボランティア団体の活動を支援する「県民参加の地域づくり事業」を行っており、毎年5万人以上の活動実績があります。これらの登録団体の活動主体は、地元自治会やNPO団体、企業、学校などさまざまな団体となっております。

今後も、地域の人々が土木施設と関わり、見守っていく活動の推進に取り組んでまいります。

4. おわりに

長崎県は、今後も歴史的、技術的価値が高い建造物の保全・活用に努め、県民のみならずともに「人、産業、地域が輝く たくましい長崎県づくり」を進めてまいります。

結びに、今年11月に長崎市で第628回建設技術講習会が開催されますが、現場研修では、ご紹介した土木遺産のいくつかをご案内する予定としております。全国各地から多くの方々が参加され、技術力を高めていただきますとともに、本県のさまざまな魅力に触れ、満喫していただければ幸いです。みなさまのお越しを心からお待ちしています。